

令和7年度

浦庄小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す・学び合う」力を定着させることで、主体的に問題解決に向かう児童を育成する。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各学年における基礎的・基本的な言語に関する知識や、計算の力が定着している。 ●上の学年に進むにつれて、学力の差が広がる傾向があり、文章の内容を正確に理解する力に課題が残る児童もいる。	・既習の漢字やローマ字の読み書きを使って、文章の内容を正確に読み取ることができる。 ・身につけた知識を、他の学習や生活の場面で活用することができる。	・練習問題に取り組む時間を確保し、継続的にミニテストを行う。 ・教科書の巻末資料や辞書を積極的に活用し、語彙を増やす。 ・板書や文章の正確な視写を指導し、助詞や漢字の使い方に慣れさせる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを伝えようとしている児童が多い。 ●友達の意見を聞きながら、自分の考えと比べたり質問や反応をしたりすることに課題がある。	・理由や根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。 ・友達の考えから学び、自分の考えと比較したり共感したりすることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・児童の発表に対して問い返しをしたり、他の児童にその発表に対しての考えを尋ねたりして考えを深めさせる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業や家庭学習で与えられた課題にきちんと取り組む事ができる。 ●自分に合った課題を見つけ、主体的に学習に取り組む力が十分には身につけていない。	・「浦庄スタイル」に則った聞き方話し方が定着している。 ・自分の学習を振り返り、新たな疑問や次に向けての課題をもつことができる。	・学び合う授業のための「浦庄スタイル」の定着に向けてこまめに指導していく。 ・本時のめあてを提示し、目的をもって学習に取り組めるようにする。 ・学びのまとめを提示し、できるようになった事に気づかせたり、課題をもたせたりする。			